

調布市基本構想素案に関する市民説明会 意見等の概要

日時：令和4年9月16日（金）午後7時～9時 参加人数17人

令和4年9月17日（土）午後2時～4時 参加人数 7人

会場：市民プラザあくろす ホール，オンライン

9月16日（金）

	意見等の概要
1	基本構想は長期計画で理念的なものである。具体的な施策は基本計画に盛り込まれると思うが、基本計画の策定に当り、市民会議のような市民参加の実践は行うのか。
2	基本構想素案の第4章に、市民が主役のまちづくりということで、素案の中には産学官民とあるが、市民が主役なのであれば、民がはじめに来るのではないか。総合計画策定推進産学官連携会議に民は入らないのか。
3	みんなが平和の内に、健康で文化的な生活を送ることを保障するのが基礎自治体の役割の一つにあると思う。市民が安全・安心のもとに暮らせるようにということが、網羅的に入っていると思うが、弱い者に対する市としての責任が薄いように感じる。
4	基本構想の分野に、男女平等・男女共同参画がない。議会を傍聴した際、理事者側に女性が一人しかいなかった。市における女性活躍についてどのように考えているのか。
5	公共施設等総合管理計画で集約複合化、民間活力の活用の視点があったと思う。公共施設の集約複合化が進んでいくと、今後、高齢化が進んでいく中で、誰一人取り残されないのか心配になってくる。
6	基本構想の分野に、生涯学習はあるが、みんなで考え合って、まちづくりに反映するところでは、社会教育というところが重要だと思う。社会教育の視点はあるか。
7	今後の基本計画の検討の中で、産学官連携も必要だが、市民にも意見を聞いてもらって、行政が主導するのではなくて、みんなで作っていきたいと思う。
8	基本構想素案の第4章第3節、計画的な行政の推進について、社会状況の変化等に対して計画を見直すなど柔軟な対応を図るという記載があるが、ぜひ取り組んでほしい。調布駅前広場については、何年も前に作った計画を基にしている。このコロナ禍や気候危機などの社会状況の中で、計画を見直していく必要があるのではない

	か。そういう姿勢を持ってほしい。
9	調布市ほっとするふるさとをはぐくむ街づくり条例のなかで、街づくり協議会が位置付けられているが、地域の人たちによる協議会ではなく、地権者だけが協議会のメンバーになれることになっている。借地や借家に住んでいる方もいる中、そういった人たちは協議会に加入できない。調布駅前に長く住んで、まちを良くしたいと思って集まっている方が街づくり協議会をつくることは困難である。地域ではなく、テーマごとの街づくり協議会をつくるなど、他の自治体の進んだ市民参加のシステムを参考に柔軟に取り入れてほしい
10	社会問題に興味があり、自分の地元ではどういった議論がなされているのかを調べていく中で、今回の説明会のことを知った。同じような思いや市のために何かをしたいという人も、どこから調べればいいのか分からない。 図書館によく行くが、パブリック・コメントを募集していることは知らなかった。ポスターを張るなど、市ホームページに載せる以外の方法でも広報することで、若者も行動できると思う。
11	市民会議や検討会を開くのはとても良いと思う。 市政運営の視点では、国からはPPPを推進するような通知が来ていると思うが、世界では、利潤追求の中、民間に任せておいてうまくいかなかった事例も起きている。調布も産学官連携やPFIを安易に取り入れていくのはどうかと思う。そういう市政運営をテーマにした検討が出来るといい、 コンサルの活用もそうだが、職員で何かをつくる力が無くなってきていると思う。例えば、水道のことも昔は市役所の職員が技術的なことも対応していた。今はそういった技術を持った専門職が減ってきている。例えばそのことについて市民の意見を聞くような場があるといい。

9月17日（土）

	意見等の概要
1	参加と協働のまちづくりの在り方について、ボランティアの育成・継続などの出口戦略を示してほしい。担い手が変わると繋がらなくなる。ボランティアをしっかりと計画に位置付け、行政の支援の在り方を示すべき。
2	自治会離れもあり、地区協議会も思ったように機能できていない。自治会の高齢化問題もある。コーディネーターもいるが、なかなか中には入ってこない。 地域の課題が多様化し、職員も人手が不足する中で、ボランティアの存在が不可欠である。ボランティア活動については、市民活動センターで担っているが、新たにボランティアセンターを創設し、ボランティアを活用できるような仕組みづくりを提案する。
3	学校運営について、いじめや不登校の問題など課題が多くある中で、人手不足が深刻である。地域と学校教育の領域を超えて連携してほしい。
4	調布市の公式LINEで今回の説明会を知った。基本構想が概念的なものであるのはしかたない。今後の具体化の取組はどうなっていくのか。
5	今の総合計画の10年間の取組の振返りが必要と考えるが、どうなっているか。振返りがあつての次の10年なので、ぜひ見えるように。例えば、防災の面での自助・共助はどうするか、教育や多様性など、アプローチについては色々なものがあると思うのでぜひ市民に伝わるようにしてほしい。
6	基本計画についてもパブリック・コメント機会はあるか。
7	ゼロカーボンシティを掲げたことは良いと思う。温暖化対策実行計画の目標年次ともマッチしており、それぞれの目標で取組を進めていく必要がある。現行の基本計画では、各事業がどのようにまちづくり指標の達成に資するのか見えにくい。
8	ゼロカーボンには部門横断的な取組が必要である。再生可能エネルギーを導入した施設整備は、防災の面でも有用。マイクロプラスチックの問題は、教育の面での取組分野でもある。省エネ住宅は高齢者の健康面でも効果がある。温暖化によって気温が高くなると外でスポーツもできなくなし、飢饉が起こることで食糧問題、紛争、平和にもつながってくる。
9	基本目標8に、生物多様性の視点をぜひ盛り込んでほしい。水辺の生物を大切にす市民団体もある。
10	現在、要支援1の認定を受けて、リハビリに行っているが、男性が少ない。男性は来ても黙っていることが多い。認知症対策も必要だが、介護予防の視点がより必要になってくる。

11	個人情報の問題，公文書管理の在り方 長友市政6期目。市民の声をますます聴かなくなってしまうと思う。
12	基本構想をつくって終わりという印象があり，PDCAサイクルをしっかりと回していく必要がある。基本構想だけ掲げても絵に描いた餅で終わってしまう。 行政評価も内部評価だけでは甘く，目標設定も下がる。外部評価を入れていかなければ，改善されていかない。
13	市外のボランティア団体ということで，協働を断られたことがある。市外からも取り入れていく必要がある。